

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和7年10月～12月実績

令和8年1月～3月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計13商工会
4. 対象企業数 165企業（1地域15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 令和7年10～12月期実績および令和8年1～3月期見通し
7. 調査時点 令和7年11月15日（土）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	37	22.4%	37	22.4%	100.0%
建設業	25	15.2%	25	15.2%	100.0%
小売業	49	29.7%	49	29.7%	100.0%
サービス業	54	32.7%	54	32.7%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

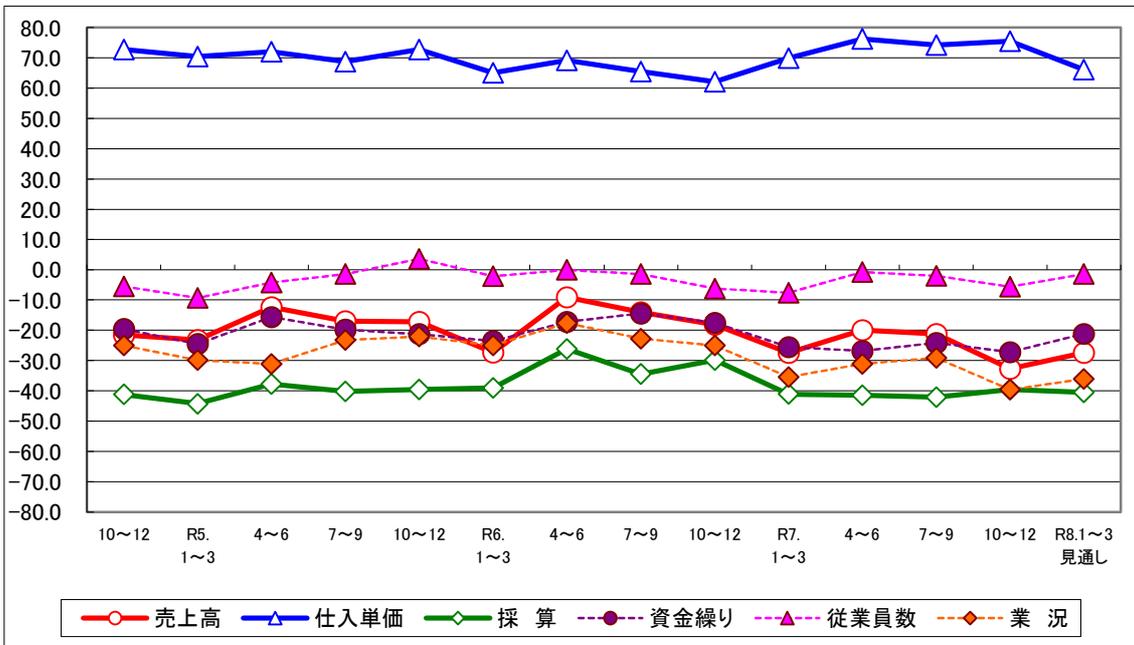
10. 分析執筆者 仁愛大学人間学部 教授、福井県立大学 名誉教授 南保勝氏

全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

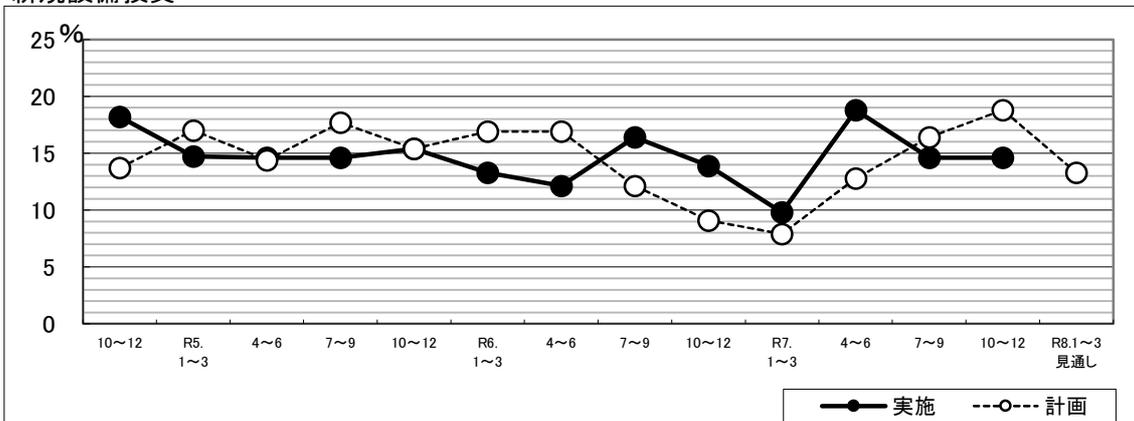
景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 21.5	72.7	▲ 41.2	▲ 19.6	▲ 5.5	▲ 25.0
R5.1~3	▲ 23.2	70.4	▲ 44.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 29.9
4~6	▲ 12.3	72.0	▲ 37.7	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 31.1
7~9	▲ 17.0	68.7	▲ 40.2	▲ 19.8	▲ 1.4	▲ 23.2
10~12	▲ 17.2	72.7	▲ 39.6	▲ 21.3	3.6	▲ 22.0
R6.1~3	▲ 27.3	65.0	▲ 39.0	▲ 23.5	▲ 2.1	▲ 25.0
4~6	▲ 9.1	69.1	▲ 26.1	▲ 17.2	0.0	▲ 17.6
7~9	▲ 14.0	65.4	▲ 34.4	▲ 14.4	▲ 1.4	▲ 22.7
10~12	▲ 18.2	62.1	▲ 29.9	▲ 17.5	▲ 6.2	▲ 25.0
R7.1~3	▲ 27.4	69.9	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 7.6	▲ 35.4
4~6	▲ 20.0	76.2	▲ 41.5	▲ 26.8	▲ 0.7	▲ 31.1
7~9	▲ 21.2	74.2	▲ 42.1	▲ 24.1	▲ 2.0	▲ 29.1
10~12	▲ 32.7	75.5	▲ 39.6	▲ 27.2	▲ 5.6	▲ 39.6
R8.1~3見通し	▲ 27.4	66.0	▲ 40.5	▲ 21.2	▲ 1.4	▲ 36.0

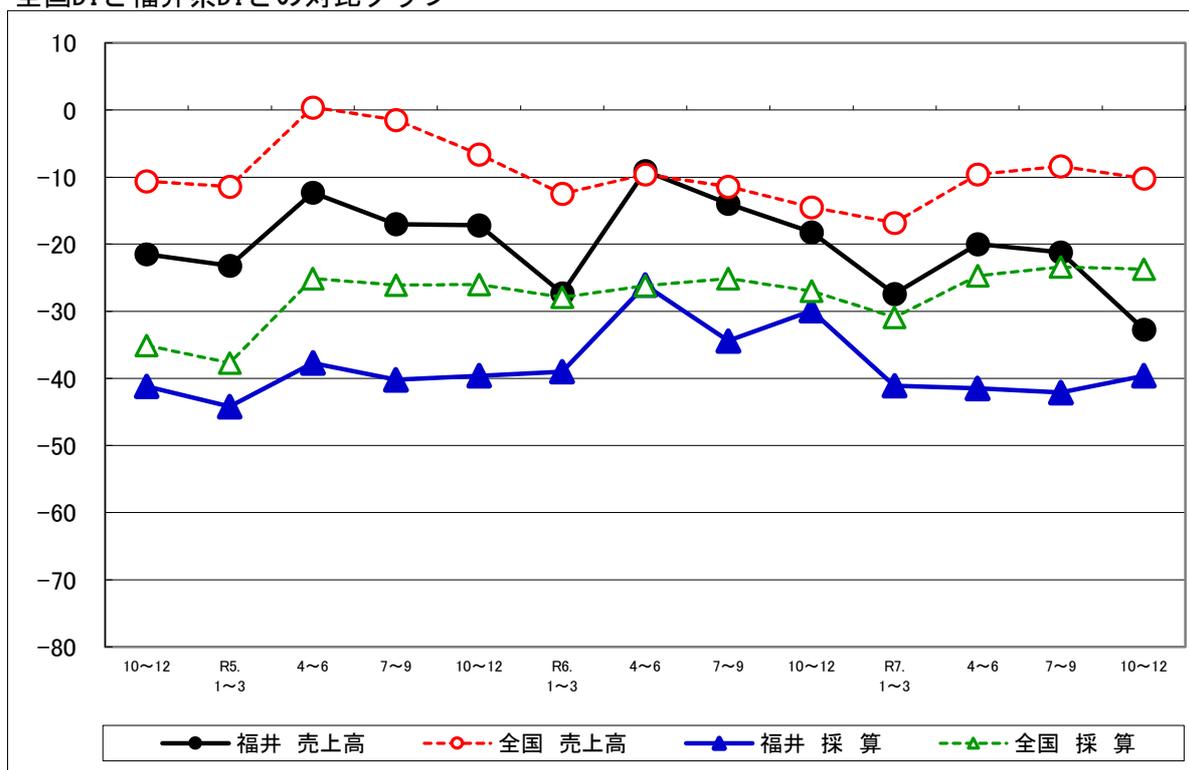
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

2025年の日本経済を概観すると、年初来、物価上昇による消費マインドの下振れを通じた個人消費への悪影響や、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクを懸念しつつ、堅調な賃上げなどによる雇用・所得環境の改善と各種政策効果が一定の成果を挙げたことで、秋口まで緩やかながら回復基調を継続した。ただ、年末にかけては、コメを中心とした食料品や家具・家事用品など生活関連物資の長期値上げによって消費マインドにも陰りが出始め、景気下押しリスクがもう一段強まっている。ただ、先行きについては、コメ価格が落ち着き、物価を上回る実質賃金の上昇が恒常化すれば、所得環境が徐々に改善し、安定した個人消費が期待できると考えられ、概ね持ち直しの推移を維持するものと思われる。

一方、米国通商政策の行方、米中の貿易摩擦が再燃する懸念、地政学リスクの高まりなど、これまで同様、新年入り後も景気に対する不確定要素は多く、これらが国内景気に一定のダメージを与えることにも留意する必要がある。

こうした中、今回の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち1項目のみで改善、5項目で悪化となった。県内企業の景況はいまだ予断を許さない状況にあることがうかがえる。項目ごとのDI値をみると、売上高が前期▲21.2→今期▲32.7、仕入単価（逆指数）が前期74.2→今期75.5、採算が前期▲42.1→今期▲39.6、資金繰りが前期▲24.1→今期▲27.2、従業員数が前期▲2.0→今期▲5.6、業況が前期▲29.1→今期▲39.6となっている。また、先行き（R8年1-3月期）については、改善予測が5項目を占め、幾分の持ち直しが期待される。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、全国は売上、採算ともに悪化しているが、福井県は売上が悪化傾向ながら採算は僅かながら改善している。しかし、全国、福井県ともに大きな差はみられず、全国的に業況の厳しさがうかがえる。

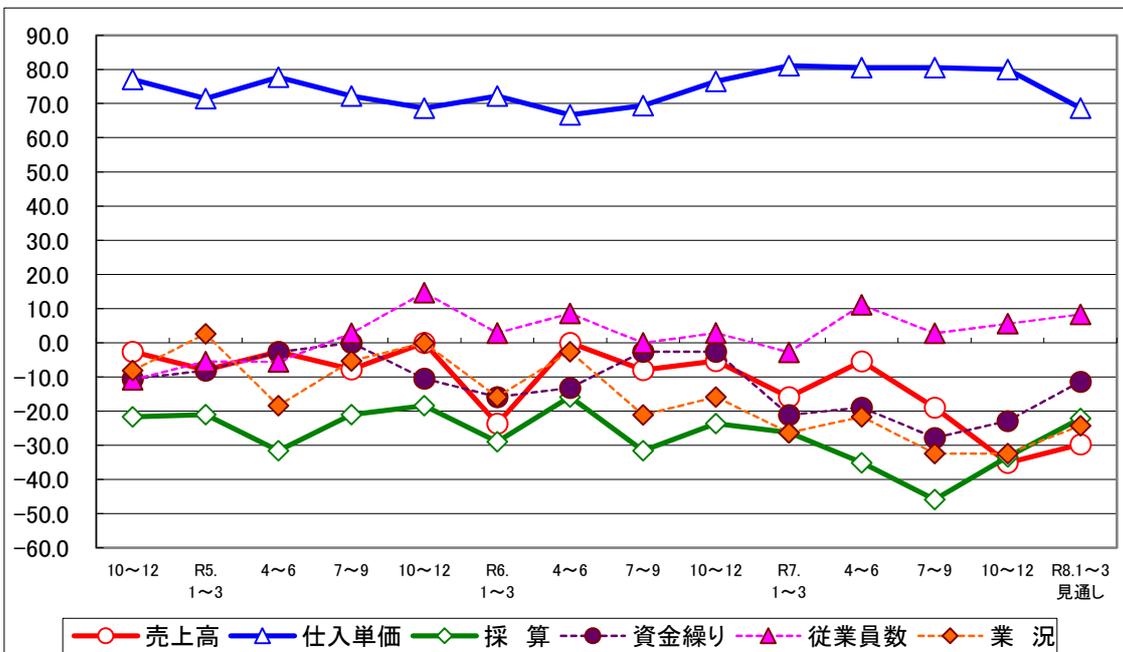
そのほか、今期の新規設備投資については、計画の18.8%に対し実施が14.6%と、実施が計画を下回ったが、来期については13.3%と今期並みの投資が期待できる。

製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

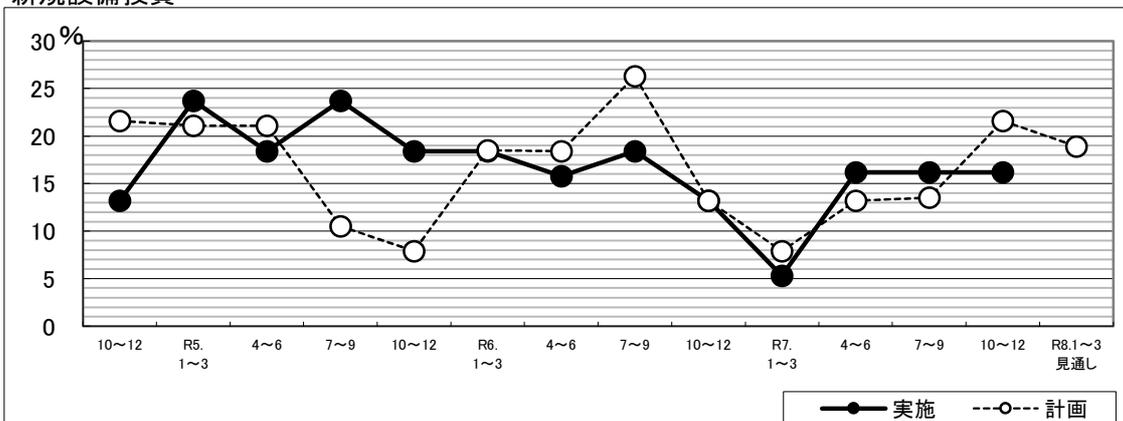
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 2.6	77.1	▲ 21.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1
R5.1~3	▲ 7.9	71.4	▲ 21.0	▲ 8.1	▲ 5.5	2.6
4~6	▲ 2.6	77.8	▲ 31.6	▲ 2.7	▲ 5.6	▲ 18.4
7~9	▲ 7.8	72.2	▲ 21.0	0.0	2.8	▲ 5.3
10~12	0.0	68.6	▲ 18.4	▲ 10.5	14.7	0.0
R6.1~3	▲ 23.7	72.2	▲ 28.9	▲ 15.8	2.9	▲ 15.8
4~6	0.0	66.7	▲ 15.8	▲ 13.2	8.6	▲ 2.6
7~9	▲ 7.9	69.4	▲ 31.6	▲ 2.6	0.0	▲ 21.1
10~12	▲ 5.3	76.5	▲ 23.7	▲ 2.6	2.9	▲ 15.8
R7.1~3	▲ 15.8	81.1	▲ 26.3	▲ 21.1	▲ 2.8	▲ 26.3
4~6	▲ 5.4	80.6	▲ 35.1	▲ 18.9	11.1	▲ 21.6
7~9	▲ 18.9	80.6	▲ 45.9	▲ 27.8	2.8	▲ 32.4
10~12	▲ 35.1	80.0	▲ 33.3	▲ 22.9	5.6	▲ 32.4
R8.1~3見通し	▲ 29.7	68.6	▲ 22.2	▲ 11.4	8.3	▲ 24.3

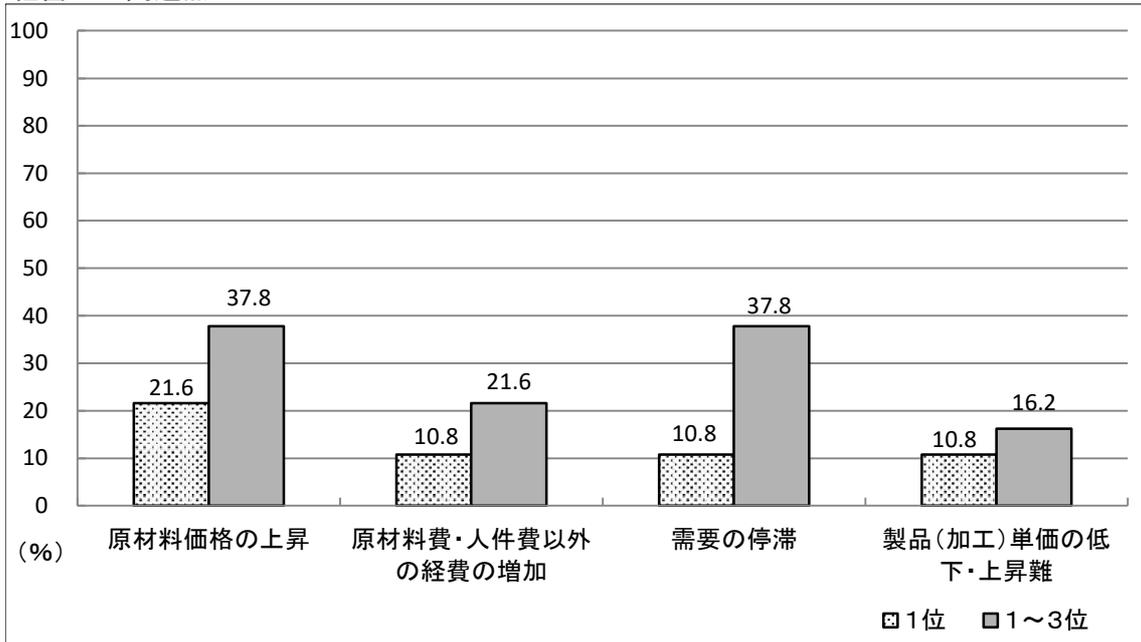
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ 原材料（もち米、米粉等）の価格上昇が大きすぎて、商品の価格転嫁が追い付かない。
- ・ 業況は決してよくはないが、日々の努力（新商品の開発）によって継続が出来ている部分はあります。
- ・ 為替の影響（円安）で原料が上昇し、各得意先の在庫が減少しておらず、新規発注が抑制されている。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維産業では、引き続き非衣料向けが堅調ながら、衣料向けは弱含んでおり、全体では足踏みの状況が続いている。化学産業も合成樹脂の化学製品を中心に弱含んでおり、アルミ圧延などの非鉄金属製品も持ち直しの動きに一服感がみられる。ただ、主力の電子部品・デバイスでスマートフォン需要を中心に持ち直しているほか、プラスチック製品も産業資材分野が復調しており、眼鏡枠なども生産が緩やかに回復していることを考慮すると、製造業全体としては持ち直していることがうかがえる。

こうした中、今期（R7年10-12月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち、売上高のみ悪化したものの、その他4項目で改善、一項目で横ばいを示すなど、国内外ともに厳しい業況ながら、改善傾向をうかがわせる結果となった。ちなみに、項目別のDI値をみると、売上高が前期▲18.9→今期▲35.1、仕入単価（逆指数）が前期80.6→今期80.0、採算が前期▲45.9→今期▲33.3、資金繰りが前期▲27.8→今期▲22.9、従業員数が前期2.8→今期5.6、業況が前期▲32.4→今期▲32.4となっている。また、先行き（R8年1-3月期）については、DI値6項目全てが改善予測となっており、県内製造業では先行きに期待感が持てそうである。

一方、新規設備投資の状況については、設備投資計画を保有する企業21.6%に対し、実施した企業ウエイトが16.2%と、実施が計画を下回っている。ただ、先行き（R8年1-3月期）については、何らかの投資を予定する企業が18.9%を占め、今期以上の投資マインドで推移することが期待できる。

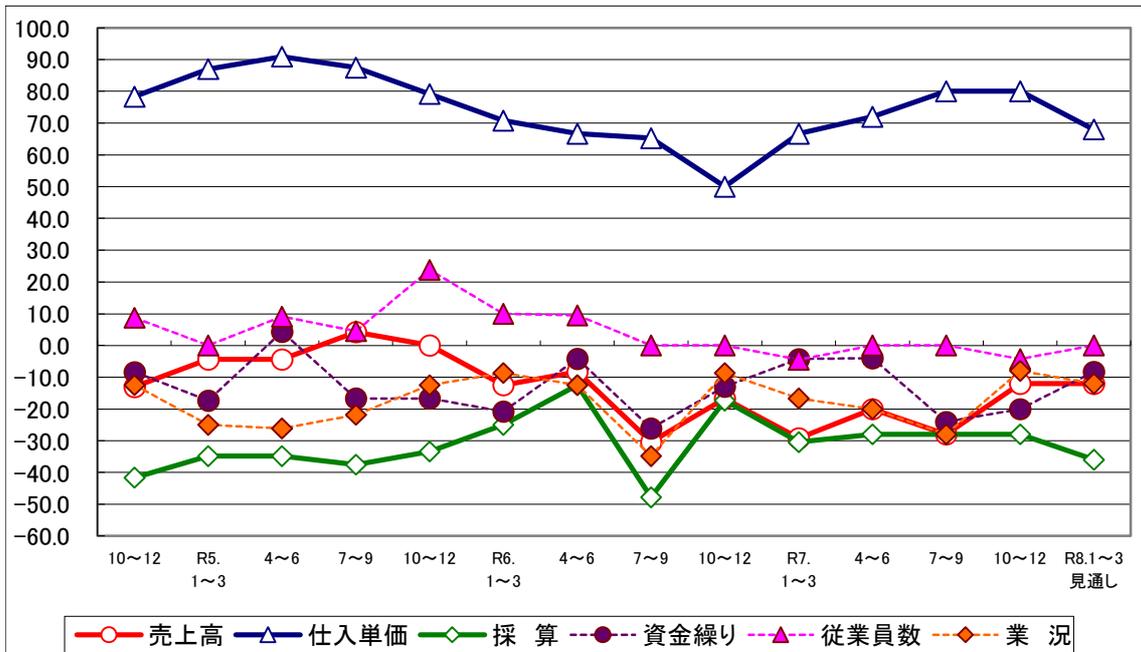
最後に、経営上の問題点については、「原材料価格の上昇」への指摘が最も多く、21.6%（1位～3位に挙げた企業37.8%）を占めた。その他、「原材料（もち米、米粉等）の価格上昇が大きすぎて、商品の価格転嫁が追い付かない。」「為替の影響（円安）で原料が上昇し、各得意先の在庫が減少しておらず、新規発注が抑制されている。」など、厳しい見解が比較的多かった。

建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

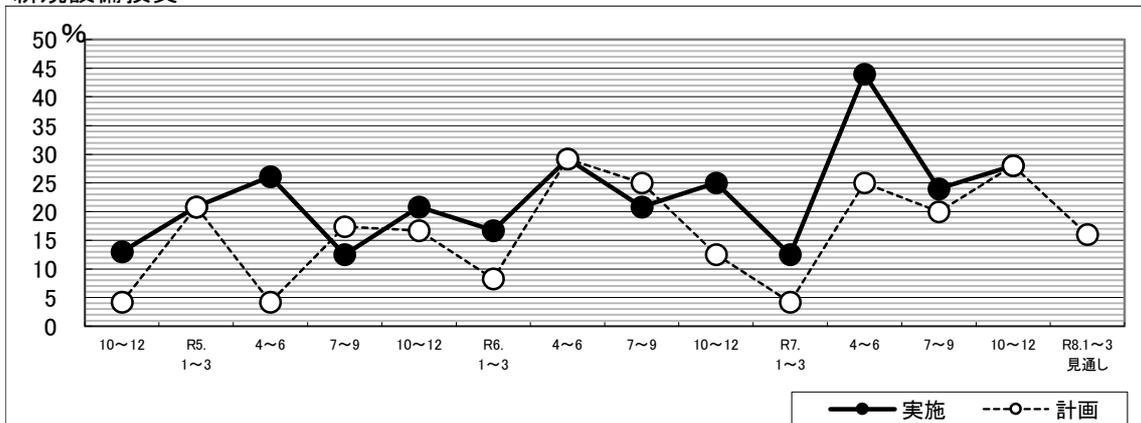
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 13.1	78.3	▲ 41.6	▲ 8.4	8.7	▲ 12.5
R5.1~3	▲ 4.4	87.0	▲ 34.8	▲ 17.4	0.0	▲ 25.0
4~6	▲ 4.4	90.9	▲ 34.8	4.3	9.1	▲ 26.1
7~9	4.2	87.5	▲ 37.5	▲ 16.7	4.5	▲ 21.8
10~12	0.0	79.2	▲ 33.4	▲ 16.7	23.8	▲ 12.5
R6.1~3	▲ 12.5	70.8	▲ 25.0	▲ 20.8	10.0	▲ 8.7
4~6	▲ 8.3	66.7	▲ 12.5	▲ 4.2	9.5	▲ 12.5
7~9	▲ 30.4	65.2	▲ 47.8	▲ 26.1	0.0	▲ 34.8
10~12	▲ 16.7	50.0	▲ 17.4	▲ 13.0	0.0	▲ 8.7
R7.1~3	▲ 29.2	66.7	▲ 30.4	▲ 4.3	▲ 4.5	▲ 16.7
4~6	▲ 20.0	72.0	▲ 28.0	▲ 4.0	0.0	▲ 20.0
7~9	▲ 28.0	80.0	▲ 28.0	▲ 24.0	0.0	▲ 28.0
10~12	▲ 12.0	80.0	▲ 28.0	▲ 20.0	▲ 4.3	▲ 8.0
R8.1~3見通し	▲ 12.0	68.0	▲ 36.0	▲ 8.3	0.0	▲ 12.0

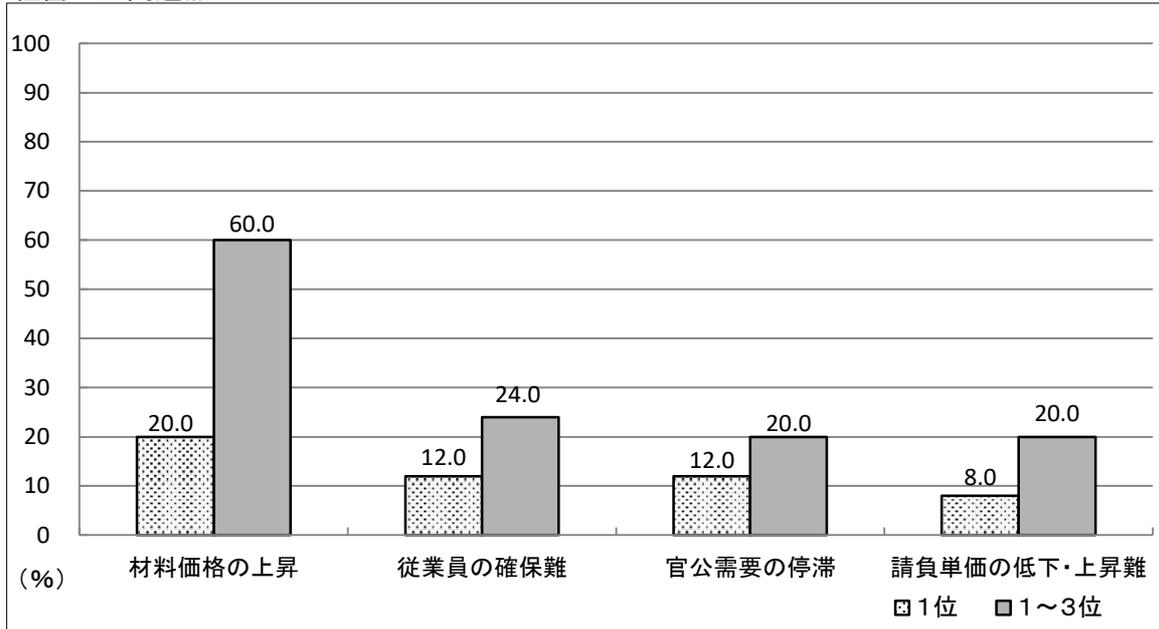
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・材料・建設費用の上昇により住宅の価格が高騰しており、新築住宅の着工件数が減少している。
- ・公共事業の入札物件が全くない。手持ちの物件消化と随契物件消化で施工しているが、随契物件の入金が3～4カ月見込めないため、資金繰りの悪化が予想される。
- ・法改正（建築基準法、アスベスト、トップランナーⅢ）により工程の長期化・複雑化が進み、人手不足に拍車がかかっている。大手の賃金上昇に小規模企業は対応しきれないため、採用にも悪影響が出ている。

建設業の景況

福井県内におけるR7年4～12月期の建設需要をみると、公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）で、請負金額が累計1,131億48百万円の前年同期比2.3%の減少、発注件数では同2,616件の同4.6%減となっている。主な発注者別でみると、市町村関連工事が477億80百万円の前年同期比29.7%増となったものの、県関連工事は307億36百万円の同11.7%減であった。そのほか国関連工事は195億28百万円で、同22.9%の減少となっている。

一方、住宅投資については、R7年4～11月の累計で、前年同期比25.9%減の1,906戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比19.3%減の1,143戸、貸家が同31.1%減の535戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰や人手不足などから厳しい経営環境を強いられている。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目のうち3項目で改善、2項目で横ばい、1項目が悪化となるなど、需要低下の中でコスト高、人手不足など、多様な経営環境に悩む業界の姿を裏付ける結果となった。各項目別のDI値については、売上高が前期▲28.0→今期▲12.0、仕入単価（逆指数）が前期80.0→今期80.0、採算が前期▲28.0→今期▲28.0、資金繰りが前期▲24.0→今期▲20.0、従業員数が前期0.0→今期▲4.3、業況が前期▲28.0→今期▲8.0となっている。また、先行き（R8年1～3月期）については、改善予想が3項目となり、やや持ち直すことが期待される。

一方、今期の新規設備投資については、設備投資を実施した企業が25.0%と計画した企業の12.5%を大きく上回ったものの、先行き（R8年1～3月期）については、何らかの投資を予定する企業が4.2%にとどまるなど、再び低調な投資意欲となることが予想される。

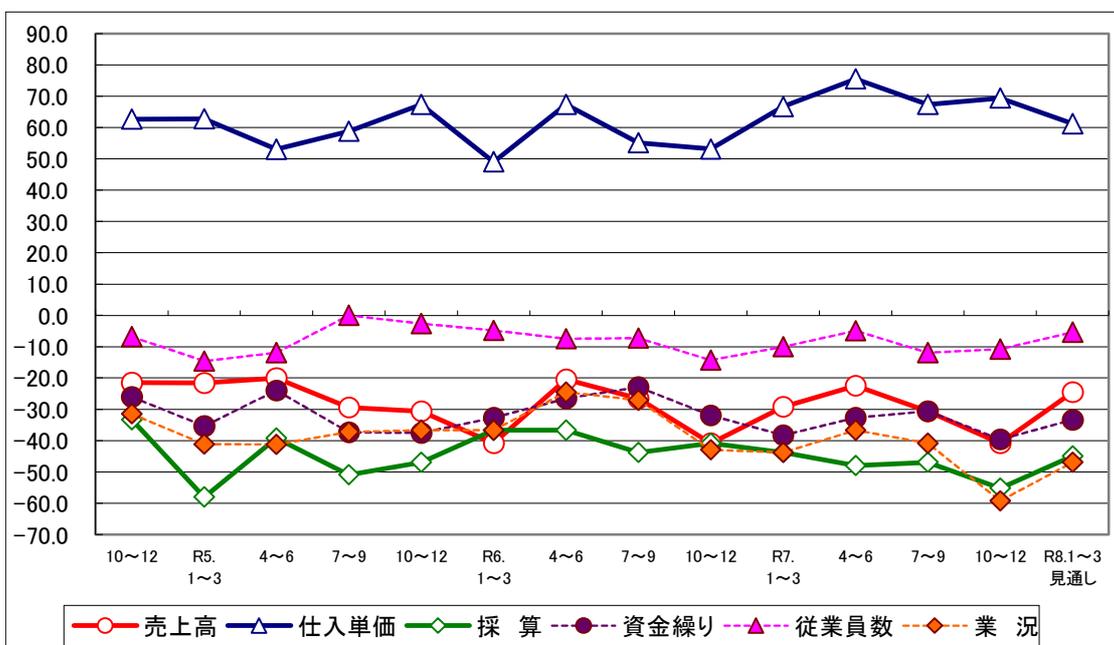
最後に、経営上の問題点については、「材料価格の上昇」が最も多く20.0%（1位～3位に挙げた企業60.0%）を占めた。個別の見解としては、需要の減少、コスト高、人手不足、法改正による工程の長期化・複雑化など、業界の多様な課題を指摘する声が目立っている。

小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

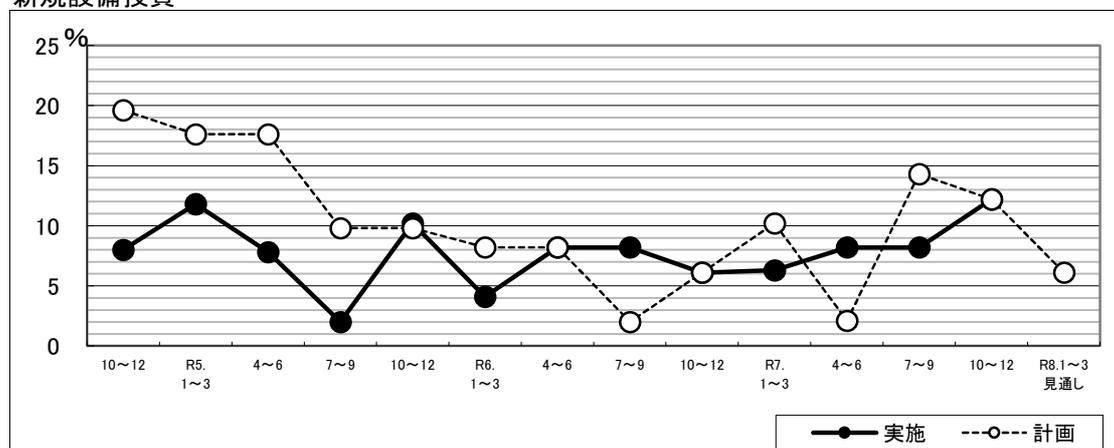
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 21.5	62.7	▲ 33.3	▲ 26.0	▲ 6.8	▲ 31.4
R5.1~3	▲ 21.6	62.8	▲ 58.0	▲ 35.3	▲ 14.6	▲ 41.1
4~6	▲ 20.0	53.0	▲ 39.2	▲ 24.0	▲ 11.9	▲ 41.2
7~9	▲ 29.4	58.8	▲ 50.9	▲ 37.3	0.0	▲ 37.2
10~12	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 37.5	▲ 2.6	▲ 36.7
R6.1~3	▲ 40.8	49.0	▲ 36.7	▲ 32.7	▲ 4.8	▲ 36.7
4~6	▲ 20.4	67.3	▲ 36.7	▲ 26.5	▲ 7.5	▲ 24.5
7~9	▲ 26.5	55.1	▲ 43.8	▲ 22.9	▲ 7.3	▲ 27.1
10~12	▲ 40.8	53.1	▲ 40.8	▲ 31.9	▲ 14.3	▲ 42.9
R7.1~3	▲ 29.2	66.7	▲ 43.8	▲ 38.3	▲ 10.0	▲ 43.8
4~6	▲ 22.4	75.5	▲ 47.9	▲ 32.7	▲ 4.9	▲ 36.7
7~9	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 30.6	▲ 11.9	▲ 40.8
10~12	▲ 40.8	69.4	▲ 55.1	▲ 39.6	▲ 10.8	▲ 59.2
R8.1~3見通し	▲ 24.5	61.2	▲ 44.9	▲ 33.3	▲ 5.4	▲ 46.9

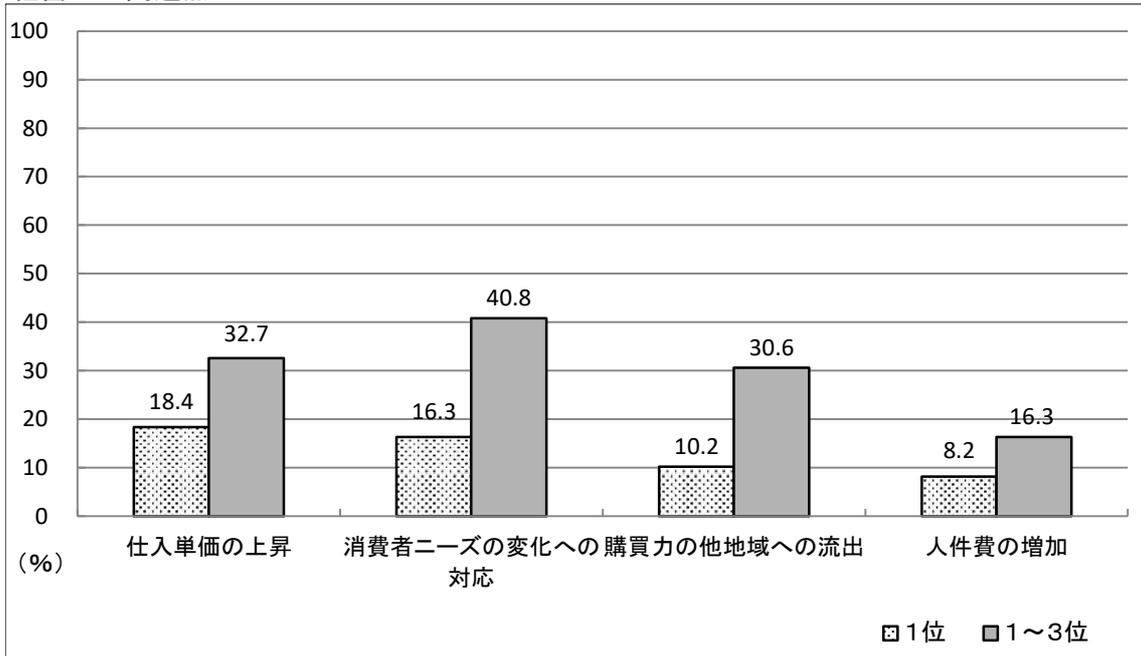
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・子供の数が減っているため注文数は減少しているが、単価を上げたため収支はあまり変わらない。ただ、販売単価をこれ以上上げると仕事がなくなる可能性があるため上げにくい。
- ・仕入れ価格の上昇と他店と比べて品ぞろえの悪さで来店客減少。味噌と醤油の固定客により売上確保している。
- ・仕入・販売価格は上がっているのですが、お客様の数が減っているように思います。お客様の希望に合うような商品を販売していくように考えていきたいと思っています。

小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、百貨店・スーパーでは、値上げも手伝って飲食料品の堅調な伸びに支えられ、全体では緩やかに回復しつつあるほか、コンビニエンスストアやドラッグストアなどでも飲料や米飯類等の飲食料品需要、さらには旺盛な出店需要もあって順調に推移。ホームセンターなどでも、日用品の動きが鈍いものの、園芸用品等に動きがみられることから、前年並みの水準を確保しているほか、家電販売も、パソコンや携帯電話等に動きがみられることから、緩やかに持ち直している。ちなみに、近畿経済産業局が公表するR7年11月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）は、飲食料品、家庭用電気機械器具の伸びに支えられ、前年同月比10.8%上昇し、81億99百万円となった。

ただ、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中5項目で悪化傾向、1項目のみが改善傾向となるなど、比較的厳しい結果となった。この要因は、飲食料品の大幅な値上げなど、物価上昇が影響しているものと思われる。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲30.6→今期▲40.8、仕入単価（逆指数）が前期67.3→今期69.4、採算が前期▲46.9→今期▲55.1、資金繰りが前期▲30.6→今期▲39.6、従業員数が前期▲11.9→今期▲10.8、業況が前期▲40.8→今期▲59.2となっている。また、先行き（R8年1-3月期）については、6項目全てが改善予想となっており、この要因は、本年は長らく続いた価格高騰が沈静化に向かい、景況が改善することへの期待感が増幅している結果と考えられる。

一方、今期の新規設備投資については、設備投資を実施した企業が6.1%にとどまり、前期（R7年7-9月期：8.2%）の水準を下回っている。ただ、先行き（R8年1-3月期）については、何らかの投資を予定する企業が10.2%みられ、幾分持ち直すことが予想される。

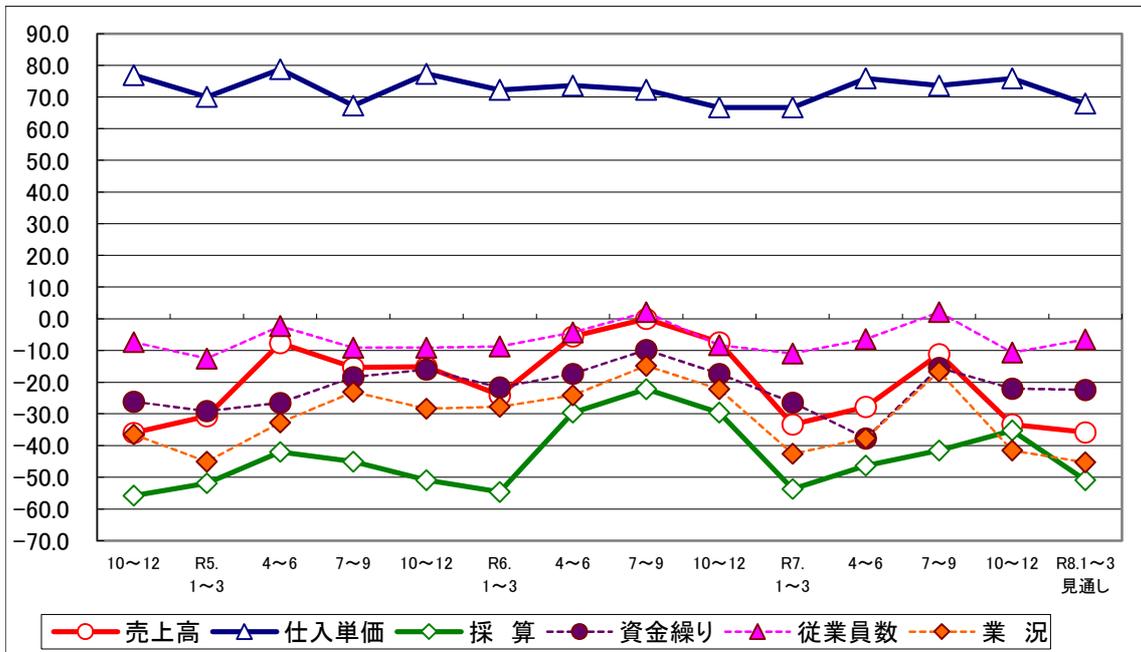
最後に、経営上の問題点については、「仕入単価の上昇」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト18.4%、1位～3位までに挙げた企業32.7%となった。また、「需要の減少」、「仕入れ価格の上昇」など、小売業界が抱える基本的な課題を指摘する声が目立っている。

サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

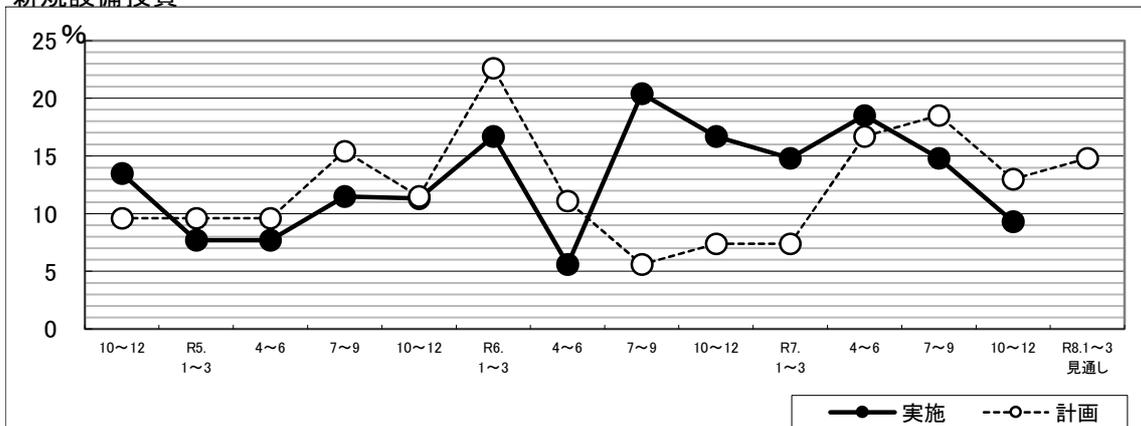
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 36.0	76.9	▲ 55.8	▲ 26.1	▲ 7.4	▲ 36.5
R5.1~3	▲ 30.7	70.0	▲ 51.9	▲ 29.1	▲ 12.5	▲ 45.1
4~6	▲ 7.7	78.8	▲ 42.0	▲ 26.5	▲ 2.3	▲ 32.7
7~9	▲ 15.3	67.3	▲ 45.1	▲ 18.4	▲ 9.1	▲ 23.1
10~12	▲ 15.1	77.3	▲ 50.9	▲ 16.0	▲ 9.1	▲ 28.3
R6.1~3	▲ 24.1	72.2	▲ 54.7	▲ 21.6	▲ 8.7	▲ 27.8
4~6	▲ 5.6	73.6	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 4.3	▲ 24.1
7~9	0.0	72.2	▲ 22.2	▲ 9.8	2.1	▲ 14.8
10~12	▲ 7.4	66.7	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 8.3	▲ 22.2
R7.1~3	▲ 33.3	66.7	▲ 53.7	▲ 26.4	▲ 10.9	▲ 42.6
4~6	▲ 27.8	75.9	▲ 46.3	▲ 37.7	▲ 6.4	▲ 37.7
7~9	▲ 11.1	73.6	▲ 41.5	▲ 15.4	2.1	▲ 16.7
10~12	▲ 33.3	75.9	▲ 35.2	▲ 22.0	▲ 10.6	▲ 41.5
R8.1~3見通し	▲ 35.8	67.9	▲ 50.9	▲ 22.4	▲ 6.5	▲ 45.3

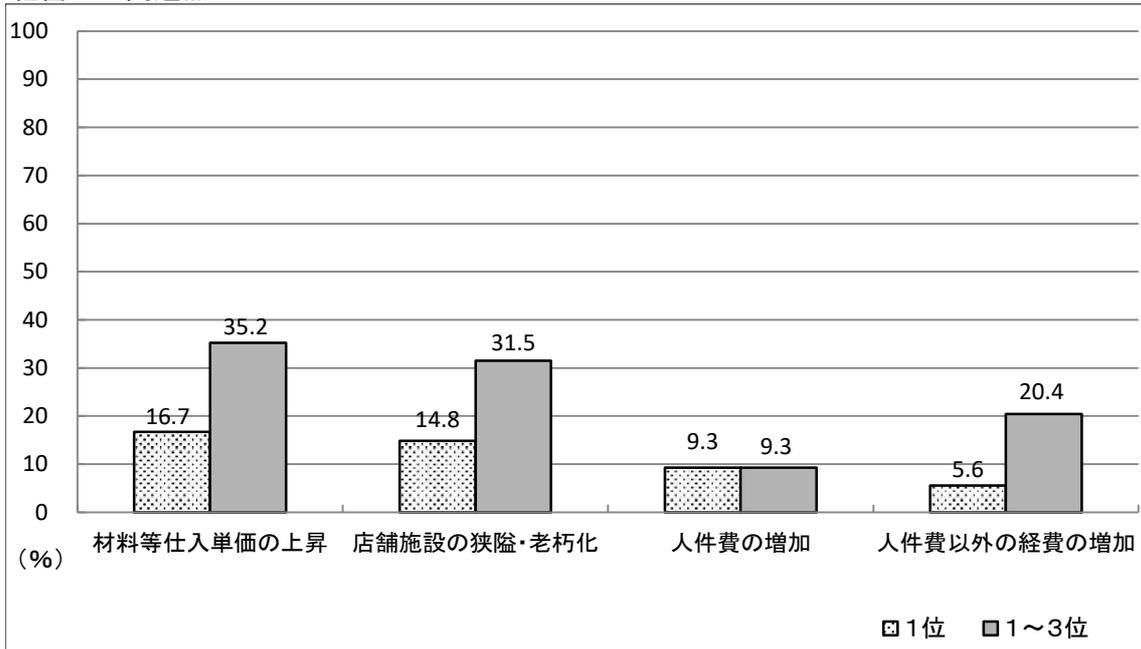
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・売上はやや減少に転じている。事業主が高齢になっており、若い方のニーズに合わせていなくなっている。
- ・経営が向上するよう頑張りたいが、後継者不在であり、体力の変化を感じながら営業を頑張るか、経費削減から考えていきたいと思えます。
- ・物価高が続いている中で、料金の値上げも考えにくい。お客様が離れていかないように工夫をしていきたい。

サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する第3次産業活動指数（季節調整値）をみると、2025年11月の第3次産業活動指数（サービス産業活動）は、指数値105.5、前月比マイナス0.2%と2か月ぶりの低下となった。業種別では、10業種中4業種が前月比低下、5業種が上昇、1業種が横ばいとなっている。ちなみに、上昇した業種は「生活娯楽関連サービス」、「医療、福祉」、低下した業種は「卸売業」、「金融業、保険業」などであった。また、第3次産業全体としては持ち直しの動きが見られる一方、小売業など一部で足下の動きに足踏みがみられるなど、業種間でのバラツキがあることから、引き続き注視が必要との考え方が支配的である。

こうした状況を踏まえ、第3次産業活動指数の11月の基調判断については、「一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動き」に据え置かれている。また、今後の動向としては、物価上昇による取引量への影響などについて、注視する必要がある。

こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目1項目のみが改善、その他5項目は悪化となり、業界全体としては、引き続き予断を許さない状況にあることがうかがえる。項目別の指数は、売上高が前期▲11.1→今期▲33.3、仕入単価（逆指数）が前期73.6→今期75.9、採算が前期▲41.5→今期▲35.2、資金繰りが前期▲15.4→今期▲22.0、従業員数が前期2.1→今期▲10.6、業況が前期▲16.7→今期▲41.5となっている。また、先行き（R8年1～3月期）についても4項目で悪化予測となっており、引き続き厳しい経営環境が続くものと思われる。

一方、今期の新規設備投資については、設備投資を実施した企業が9.3%あり、前期（7～9月期：14.8%）を下回っている。また、先行き（R8年1～3月期）については、何らかの投資を予定する企業が14.8%となり、やや増加することが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「材料等仕入れ単価の上昇」（1位に挙げた企業16.7%、1位～3位までに挙げた企業35.2%）への指摘が最も多い。個別の見解としては、売上の減少、高齢化、後継者難、物価高など、厳しい見解が大宗を占めている。

全国・福井景気動向 令和7年7月～9月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0.0	-0.1～ -15	-15.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	横ばい	やや悪化	悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 10.2	72.2	▲ 23.7	▲ 13.6	▲ 4.1	▲ 17.8
	製造業						
	DI値	▲ 6.4	68.7	▲ 20.4	▲ 14.1	▲ 5.1	▲ 16.3
	建設業						
	DI値	▲ 6.6	75.2	▲ 17.0	▲ 5.9	▲ 6.4	▲ 9.3
	小売業						
	DI値	▲ 21.5	71.0	▲ 32.1	▲ 20.7	▲ 2.2	▲ 30.3
	サービス業						
DI値	▲ 6.4	74.0	▲ 22.1	▲ 11.3	▲ 2.8	▲ 15.4	
福井	全体						
	DI値	▲ 32.7	75.5	▲ 39.6	▲ 27.2	▲ 5.6	▲ 39.6
	製造業						
	DI値	▲ 35.1	80.0	▲ 33.3	▲ 22.9	5.6	▲ 32.4
	建設業						
	DI値	▲ 12.0	80.0	▲ 28.0	▲ 20.0	▲ 4.3	▲ 8.0
	小売業						
	DI値	▲ 40.8	69.4	▲ 55.1	▲ 39.6	▲ 10.8	▲ 59.2
	サービス業						
DI値	▲ 33.3	75.9	▲ 35.2	▲ 22.0	▲ 10.6	▲ 41.5	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。